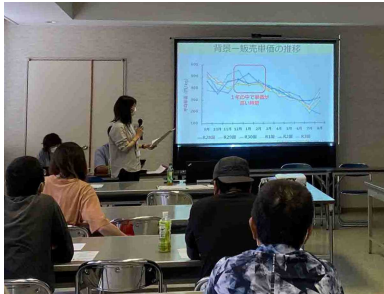


普及活動情勢報告（令和４年７月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

さらなる収量、所得向上を目指して～安芸支部総合部会～



６月２２日、ＪＡあき北支所で安芸支部総合部会が開催され、生産者１７人が参加しました。農業イノベーション推進課は、ＩｏＰクラウド「サワチ」について、農業改良普及課は、施設ナスにおける厳寒期（１２月～２月）の収量向上について実証ほの成績（令和４園芸年度）を説明しました。

参加者からは、炭酸ガスの施用方法や経営面から質問が出されました。また、新たに生産者３人がＩｏＰクラウド「サワチ」に登録しました。今回の部会では、収量、所得向上の意識を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もＪＡ等と連携し、環境データに基づいた指導により、収量向上を支援していきます。

安田町担い手育成総合支援協議会研修生への支援



６月２２日、安田町担い手育成総合支援協議会（以下、担い手協）メンバー（安田町・振興センター）で、農業担い手育成センターで研修中の研修生と面談し、研修状況の確認や７月からの先進農家研修に向けた情報共有を行いました。

研修生からは、「４月から担い手育成センターで研修を開始したが、植え始めの時期に研修をした方が効果がありそう」「整枝・収穫スピードは自分では８０点の自信がついた。経営を開始したら反当２３ｔ以上とれるように頑張りたい」といった意見がありました。

農業改良普及課では、今後も担い手協メンバーと連携しながら、研修生が充実した研修で技術を習得できるよう支援していきます。

令和４年度第１回農業改良普及推進協議会を開催



６月２９日、田野町ふれあいセンターで農業改良普及推進協議会を開催し協議会構成員（農家代表者、ＪＡ、市町村）２１人が出席しました。

会では、令和４年度普及指導計画の概要等について説明を行った後、出席者との意見交換を行いました。

出席者からは「耕作放棄地が増えている。新規就農者の力を借りないと深刻化するのではないかな。農地活用について考えて欲しい。」「環境制御機器を上手く使いこなせていない人に対して、どのように技術指導をしていくのか。」等の意見が出されました。

農業改良普及課では、構成員の皆さまからのご意見を今後の普及活動に活かして行きます。

ナスの生体情報の見える化への取り組みⅡ ～IoPプロジェクトより～



7月1日、IoPプロジェクトの一環で取り組む「ナスの生理生態情報の見える化」に関する研究報告会がJA安芸出荷場で開催され、ナス農家5人とJA職員2人が参加しました。

高知大学からは、ナスの光合成モデルの確立による光合成量や蒸散量等の見える化の進捗状況、本園芸年度の栽培データから確認できたことや分析結果が報告されました。

農家からは、「指標ができれば栽培管理の判断材料に活用できる」、「葉面積指数は品種特性に応じた分析も必要」等研究に期待する声や多くの質問、意見が出されました。

農業改良普及課は、現地ほ場で調査した生育データを大学に提供しており、今後も大学等と連携し、生産者と情報を共有していきます。

土壌肥料の基礎知識を学ぶ ～第1回農業基礎研修講座～



7月12日、第1回農業基礎研修講座を開催し、新規就農者を含む生産者18人が参加しました。講座では、土壌の基礎知識、肥料成分の役割、植物の生理障害、肥料の概要と施肥設計について学び、座学だけでなく、施肥量の計算演習や、土壌サンプルを使ったpH、EC、硝酸態窒素量の測定実習なども行いました。

参加者からの「土壌にリン酸が多いがどんな肥料を使えばいいか」という質問に対しては、リン酸成分の少ない液肥の使用を提案しました。

農業基礎研修講座は、12月までに合計7回を予定しており、新規就農者にもわかりやすく、実践で役に立つような講座内容を目指します。

1年の実証ほ試験の成果を報告 ～試験展示圃成績発表会～



7月15日、安芸地区園芸研究会がJA高知県あき支所で試験展示圃成績発表会を開催し、ナスやピーマンの生産者25人が参加しました。

農業改良普及課は、令和3年度に実施したピーマンの県育成品種（高育交14号、15号）の収量・品質の調査結果や、ナスにおける厳寒期の収量向上を目的とした実証結果を報告しました。

参加者からは、「肥料や燃油価格が高騰している中で、自分に合った方法を取り入れて所得向上を目指していこう。」といった前向きな声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も新たな技術の実証に取り組み、生産者や関係機関と情報共有していきます。

稲を食害するスクミリンゴガイを根絶するぞ！ 東洋町での防除実証試験



7月9日、安芸農業振興センター室戸支所は東洋町の水稲農家2人とJA高知県とで、石灰窒素によるスクミリンゴガイの防除実証を行いました。

昨年東洋町で初めてスクミリンゴガイの生息が確認されたことから、地域への拡大を阻止するため、農業改良普及課室戸支所の提案で国からの交付金を活用し、本年4月から発生状況調査と捕獲を行ってきました。

参加した農家は「今年でなんとか抑えるようにしたい。」と切に願っていました。

農業改良普及課室戸支所は、関係機関と連携して東洋町でのスクミリンゴガイ根絶を目指します。